

から21



令和5年度男女共同参画川柳入賞者

令和5年 10月2日から 11月27日まで募集したところ一般の部（195句）学生の部（330句）
応募総数 525 句の応募があり、選考の結果、次の12作品が入選しました。

多数のご応募ありがとうございました。

【一般の部】

最優秀賞

支えあい かける言葉は 「ありがとう」

スコアラ 0330 室の木町

優秀賞

イクメンは イケメンよりも 魅力的

山本 育子 周東町

入選

子の手伝い 時間かかれど 倍返し

篠原 奈菜 室の木町

入選

家事育児 手伝うではなく 平等に

えまりん 装束町

入選

パートナー つないだ手と手 横並び

河北 洋子 玖珂町

【学生の部】

最優秀賞

家族だもん 家事分担で 笑顔生む

杉原 蒼衣 高水中 三年

優秀賞

男女の差 無くして分かる 多様な個性

ゆあ 麻里布中 三年

入選

多様性 男女の壁を うちこわせ

ハゲミン 岩国工業高 二年

入選

自分から 差別なくす 第一歩

T・K 岩国工業高 三年

入選

家事育児 出来ちゃうパパに 俺はなる

土屋 勇馬 麻里布中 一年

入選

NO差別！ 男女が共に 生きる世界

中原 陽愛 麻里布中 一年

入選

キツチシは 父母二人の 憩いの場

藤中 結望 麻里布中 三年

（敬称略）



「子ども達の神楽の練習の助けにいたい」
波羅佐喜子さん（63 歳）



「大蛇」の演目にあこがれて
波羅秋実さん（29 歳）

母 佐喜子さん

佐喜さんは平成 19 年から 9 年間、本郷山村留学センターの指導員として勤務。山村留学センターの子ども達が、「本郷子ども神楽」に熱心に取り組む姿に、自分が知識を得て、子ども達の日々の練習の助けになれないものかと真剣に考えましたが、神楽は男性だけで行うしきりもあり、笛を習うという願いは叶いませんでした。そんな中、突然代役の依頼が舞い込み、私で力になれることとなると引き受けました。そのご縁で、今も山代神楽本谷保存会（会長 山崎郁夫氏）の一員として笛や裏方を担当しています。

娘 秋実さん

秋実さんは 4 人兄弟の末っ子で、祖父母が暮らす美和町で子どもの頃から神楽を観て育ち、大蛇（オロチ）のカッコよさに憧れを抱いていました。

中学、高校時代はハンドボールに打ち込み、社会人になってから、大蛇（オロチ）への憧れを現実のものにしたいと一大決心。母が見つないでくれたご縁をさらにつなぎ 8 年前に本谷保存会に入団しました。

「自然が好き！花が好き！ものづくりが好き！」気の合う 2 人の口からは、神楽のおかげで出会うことのできた本谷保存会の皆さんへの感謝の言葉と、舞手・楽士・裏方と役割分担をしながら全力で一つの演目を作り上げることへの喜びが溢れます。

「神楽の教科書はなく、人から人へと古くから受け継がれています。これからも人とのつながりを大切に続けていきたいです。」

日頃から、父母への感謝は言葉で伝えている秋実さん。そんな娘が近くにいてくれることはとても心強いことだと佐喜さんは顔をほころばせます。



波羅さん親子（姫と大蛇）
山代神楽共演大会にて



本郷山村留学センターの子ども達の練習の様子



家族でつなぐ絆

親は子に自分の経験や技術を伝えるとともに、子の個性や感性を尊重する。子は親に刺激を受けながら、自分なりのスタイルを探究、お互いに切磋琢磨し、家族だからこそ分かち合えるそれぞれの魅力を楽しむ。

時代とともに家族の姿は変わっても、家族愛や絆は変わらない。

今回は親子で一つのことに情熱を燃やし、家族だからこそその支えあいと、進化していく姿を取り上げました。

いつか、親子二人で同じステージで演奏したい！



寺崎哲章さん（44 歳）
羽奏さん（15 歳）

父 哲章さん

中学、高校で吹奏楽部に所属し、大学進学後も吹奏楽団や管弦楽団で演奏を続け、現在は岩国ウインドアンサンブル、大学 OB 管弦楽団にて活動中です。

小学校 6 年の時に岩国祭の吹奏楽パレードを見て、自分も楽器を吹いてみたいと思い、当時、音楽は苦手でしたが、中学校で吹奏楽に入部し、トロンボーンを吹いて今年で 33 年になります。

親子で同じ楽器をやっていると、自分の思ったように練習に取り組んでももらえないと、もどかしく思うこともありますが、吹いていて楽しい曲、大変な曲など共通の話題で盛り上げることが喜びです。

父から羽奏さんへ 「学生時代の部活動の経験は一生の財産になります。がんばれ！」

娘 羽奏さん

母もファゴットをしていますが、演奏している父の姿を見て、スライドが伸びたり縮んだりするトロンボーンの方がカッコいいと思い、6 年生から始め、中学校で吹奏楽部に入りました。最初は新しいことだらけで、とても楽しかったのですが、すぐあきてしまったり、楽器が重たいので大変だと思うこともあります。文化祭、シンフォニア岩国で行われた響 2023 で思いきりソロを吹いたことや「銀河鉄道 999」で、父と一緒にソロをどうアレンジするか話し合ったこともいい思い出です。

親子で一つのことに取り組んで良かったことは、楽しい曲、大変な曲などを共有して盛り上げられることです。でも、土日ゆっくりしたい時にも「練習しろ」と言われ、小学校のときも、友達と遊びたいのに「毎日〇分は練習」と強制されてぜんぜん遊べませんでした…。さぼってましたけど。（笑）

羽奏さんから父へ

「パパのおかげで先輩や先生など、たくさんの人たちと関わることができました。ありがとう！」

いつか同じ楽団や
ステージと一緒に演奏
することができたらいいな
と思います。



次の世代にも書道の良さ、楽しさを継承できるよう
新たな書道家を育てていきたい



幸さん

豊さん

伸さん

3世代で受け継ぐ書道一家

山本 豊さん（87歳）

山本 幸さん（62歳）

山本 伸さん（27歳）



ミユキ書道教室（周東町）

幸さんが主宰するミユキ書道教室が35周年を迎えました。現在は、息子の伸さんも一緒に指導にあたられています。幸さんが書道に携わるきっかけとなったのは、元々両親が書道が好きで、父の豊さんが賞状の名入れなどを依頼されていたので、物心がついた頃から常に書が自宅にあったことです。

大学では書道を専攻し、その頃から書道を仕事にしようと意識します。

同じく伸さんも生まれた時から書が身近にあり、左利きを直すために3歳の頃から始めました。幼い頃、作品展に出品する際は、祖父の豊さんが指導にあたり、あまりの厳しさに涙することもありましたが、上手に書けた達成感で小学生の頃には将来は書道家になると二分の一成人式で発表しました。

書道に関わることで姿勢や立ち振る舞いにも良い影響を与えます。そんな楽しさを多くの人に伝えたいと幸さんは言います。伸さんは家業としての責任と少しでも書道に興味を持ってくれる若者が増えてくれることを願い、高校から10年以上続けている書道パフォーマンスも現在は指導する立場になりました。

書道という同じ道を歩むことで、同じ方向に向かって団結できます。病気の際も教室で代わって指導するなど家族で支えあっています。また生徒の皆さんも幸さんの頃から三世代にわたって通ってくれるご家族もあり、地元に支えられてきました。

先生と子弟という立場で仕事中は接していながらも、時には遠慮なく本音を言い合うことで意見の衝突もあります。ここまで長く続けてこられたのは、家族の協力と地元の皆さんに支えられたおかげです。このまま親子で続けていきたいし、また次の世代にも書道の良さ、楽しさを継承できるよう新たな書道家を育てていきたいと思っています。



書道パフォーマンスの様子

岩国に住んでいる人に、もっと石人形を知ってほしい

父 勲さん（馬鹿石さん）

石人形をやろうと思ったきっかけは

子どもの頃は石人形のことは全く知りませんでした。漢詩、俳句、その他資料を調べていくうちに面白いと感じ、喫茶店を運営していましたが、建物が建て替わるタイミングで「人がしないことをやった方がよい」と思い、石人形を始めました。石人形そのものは江戸時代から土産物として売られていましたが、製作する人がいなくなり、せっかくの岩国の縁起物がなくなるのはもったいないと昭和 54 年に始め 45 年になります。一つのことにこだわる人を〇〇バカと呼びますが、「私も石人形をとことんつき詰めて石人形馬鹿になりたい」との思いから、自分のことを馬鹿石と名付けました。

息子が後を継ぐと聞いて、食べていけるか？本気がどうか？心配でしたが、これだけ不景気でも頑張ってくれているので大丈夫だと思います。後を継ぐ者がいなかったら終わってしまうので、継いでくれて一安心です。今後もこの文化を守り続けてほしいです。

始めた頃は吉香公園近くにありました。横山に遊びに来た子ども達が寄ってきて、私の話を聞いて過ごしていました。今は錦帯橋近くにありますが、錦帯橋を渡ってここへ寄ってほしいと思います。

石人形は石に人形を書くのかと勘違いされる人も多いですが、子どものころの思い出のある方はもちろん、まだの方にはぜひ実物や資料を見ていただきたいです。

息子 太陽さん

後を継ごうと思ったきっかけは

就職で岩国を離れ大阪に 4 年間いたことで、岩国の良さを再認識しました。特に後を継ぐことは考えていませんでしたが、父が還暦を迎え、2004 年にそのタイミングで退職。ここにしかない文化を残そうと思い石人形を継承することにしました。石人形の魅力は、人と同じで皆それぞれ違うところが面白いと思います。見る方もそれぞれ感じ方が違うところです。

ここまでの 20 年間は苦しい道でした。親子だから続けてこられたと思います。気兼ねなく質問できることはよいのですが、性格も違うので、いろいろありますが、そこは仕方ないことだと思っています。

今後の願い 岩国独自の文化で、何百年も続いているものだから、多くの人に知ってもらって、残していきたいです。

石人形ってどうやってできる？

錦帯橋の下の川の中では人の形をした石が採れます。これは、ニンギョウトビケラという昆虫が川の中の小石や砂を集めて巣を作ったもので、人の形をしているため石人形（人形石とも）と呼ばれています。



横田 勲さん（80 歳）
横田太陽さん（44 歳）



岩国石人形資料館



石人形って？



石人形資料館HP

岩国市内の「やまぐち男女共同参画推進事業者」を紹介します

「やまぐち男女共同参画推進事業者」とは
ワーク・ライフ・バランスや男女が共に働きやすい職場環境づくりに積極的に取り組む事業者を山口県が認証する制度です。今回は、令和4年度に認証された市内の7事業者をご紹介します。

事業者名	取組内容（一部）
(株)小澤塗装（御庄）	・ 所定外労働の削減の取組 ・ 女性の積極的な求人募集
(株)タカヅキ（御庄）	・ 短縮勤務制度 ・ 1歳未満で保育所等に預けられない子供を職場に連れて出勤できる体制を整備する（事務所に託児スペース設置）等の会社での家庭と仕事の両立支援
(株)キネマティクス（由宇町）	・ 罹患時、通院時の特別休暇 ・ 従業員の心身の健康維持のための美容健康手当
(株)ミヤベ（元町）	・ 資格取得支援 ・ 働きやすい職場環境づくりのため、年に1回以上の社内アンケートの実施
山口県東部ヤクルト販売(株)（室の木町）	・ 育児・介護休業者がスムーズに復帰できるよう研修等への参加機会を提供 ・ 女性の管理職への登用
サカイ土地(株)（尾津町）	・ 所定外労働の削減の取組 ・ 半日や時間での有給休暇取得が可能
(有)参輪（周東町）	・ 育児・介護休業が取得しやすいよう代替要員の配置 ・ 職員の結婚時、妻の出産時の特別休暇

○取組内容の詳細は山口県の紹介ページをご覧ください。今回紹介の7事業者を含め岩国で63事業者（R5.12月末現在）が認証を受けています。あわせてご覧ください。

こちらから→



○認証事業者への広報による支援として、HPでの紹介、取組事例集やリーフレットの作成、大学・高校やハローワークへの情報提供を行っています。

認証制度にご興味のある事業者の方はこちらから→



【編集後記】

今回は一つのことに情熱をもやし、支え合いながら成し遂げていく家族の姿を取材させていただきました。特集ページだけでは足りず、ページを追加しての特集となりました。ほっこりと感じる家族の絆を感じていただけたらと思います。

編集委員 塚本 胃甲 村上 富田